

ひとあじ違う 稲架掛け米

あさげ新聞



右の写真は、九月十九日、稲架掛け用から稲刈りがスタートした様子です。稲架掛け米は白毛餅とコシヒカリで田んぼ一枚つつ掛けました。

【九月の主な活動】

1. 稲作事業

- ・土手、畦の草刈り
- ・稲架掛け米の稲刈り
- ・コンバインによる稲刈り

2. 園芸事業

【野菜栽培】

- ・夏野菜の収穫、包装、出荷
- ・キュウリの消毒、追肥、誘引
- ・秋野菜の種まき（ダイコン／三期キャベツ／小松菜／水菜／春菊／冬菜／玉ねぎ）

- ・二期キャベツの定植と防虫ネット張り
- ・ジャガイモ、一期キャベツの出荷
- ・一期キュウリ棚の片付け

【ほおずき栽培】

- ・土手、畦の草刈り
- 【どうもろこし栽培】
- ・土手、畦の草刈り
- ・圃場の片付け
- ・畑の耕起

3. 菓細工事業

- ・福縄づくり
- ・駒ヶ根もみじクラフトの出店

4. その他

- ・新味噌の樽出し

稲作事業

九月二十五日、コンバインによる稲刈りがスタートし、二十八日に終了しました。今期は収穫目標を百六十俵と置き、進めた結果は、二百俵の豊作見込み。今年は天候に恵まれ、稲の倒伏も無く、また稲作の管理を専任化した事で、仕事に対する責任感が生まれ、管理が強化され、収穫量の増加にも結び付きました。



水田の拡大に伴い、もち米専用のコンバインを中古で導入しました。白毛餅の刈取りで、満面の笑みを浮かべるメンバー！



園芸事業

〈野菜栽培〉

夏野菜も終りに近づき、秋野菜の種まき、定植が盛んな時期になりました。二棟ハウス内に薬物野菜の小松菜、水菜、春菊、冬菜を種まきました。

地域共生推進室 発行
【36号】
2023年10月10日発行

ご意見・質問は下記のメールまでどうぞお寄せ下さい。採用された方には旬の野菜をプレゼント！
mail ;
ta-hara@koaglobal.com



一棟ハウスには中生、中晩生、晩生の玉ねぎを三種類を撒きました。



九月二十日、秋野菜の定植が段々に始まりました。



畑には二期分のブロッコリーとキャベツ、白菜、ダイコン、赤カブ、赤ダイコンが入りました。秋野菜も栽培品種を増やし、道の駅の野菜を充実していきます。



〈どうもろこし栽培〉

先月とうもろこし畑の茎を、葉切断機でカットし、片付いた畑をトラクターで耕起しました。



〈ほおずき栽培〉

盆前に出荷したあと、放置してあった畑の畦及び土手の草刈りを行いました。わかつてはいるけど、草は伸ばし過ぎると大変な事を再認識しました。



菓細工事業

〈もみじクラフト〉

九月十六、十七日の二日間、駒ヶ根の「もみじクラフト」に水引を展示、販売しました。四年ぶりの開催で初のお客さんの丘、アルプスドームでの開催でした。全国から百人を超えるクラフトマンが参加され、大勢の人で賑わいました。あさげの里のブースも、多くの方に足を止めて頂き、事前に用意したRakuten、Mimeのショッピングカードを、お持ち帰られました。

【アルプスドーム】



その他

〈味噌の樽出し〉

今年の一月から仕込んだ味噌を仕込順に樽出しを始めました。樽の調合のバラツキを無くす為、二樽を三回に分けてミックスし色ムラがなくなるまで攪拌し、別の青い樽に入れます。



味噌を一キログラムづつに計量し、袋詰めし、ラベルを貼って九月三十日から新味噌として道の駅で売り出しました。蔵の女性陣にお湯でいって味見して頂いたところ、良い感触で一安心です。

